

詠む広場

毎日俳壇

井上 康明 選

片山由美子 選

小川 軽舟 選

西村 和子 選

針供養針一本に養はれ

鎌倉市 前川 卓

△評▽8日の針供養の日、裁縫の針一本が暮らしを支えてきたことよと、長い歳月を振り返る。まだ春浅い頃の感慨である。

それぞれに声を印して鳥帰る

小田原市 林 梢

△評▽北へ帰る渡り鳥の声が聞こえる。一羽一羽意志があつて空へ印すかのようである。

酒濁の声を聞かむと仰ぐかな

唐津市 梶山 守

深深と鉄の匂に山眠る

高松市 島田 章平

囀や一雨ありし石舞台

逗子市 上京 呑海

友達の名前並べてチュリッパ

狭山市 小俣 敦美

枯野来て石にもどりし仏かな

神戸市 中林 照明

子雀の土より光る初御空

大和高田市 畑中 廣恵

大空へ枯葉微塵となりて消ゆ

宇都宮市 手塚 康雄

山焼の炎の竈渦まけり

平塚市 高橋 佳代

本棚のかすかな埃日脚伸ぶ

東京 徳原 伸吉

△評▽春が確実に近づいていることを感じる日々。うっすらつもりかけたほこりに気がつくのもそんな季節の明るさゆえだろう。

歌ふこと語らふがごと野水仙

川崎市 平出たみ子

△評▽群生している水仙が咲きそろう、触れ合う様子が浮かぶ。声が聞こえてきそうな楽しさ。

湿み合へる待合室や日脚伸ぶ

池田市 高倉 明子

大寒や卵割り入れ朝の粥

入間市 木嶋 務

失せ物をひとりて探す寒夜かな

東京 林 半寿

押されれば笹のかは打つ宵戎

大阪市 金尾 美昭

槌音の新築現場日脚伸ぶ

つくば市 村越 陽一

入学の子のランドセルはや届き

さいたま市 金井 裕子

残業の外階段の手摺り凍つ

安中市 大澤信太郎

母の子に生まれ幸せ花八手

いわき市 会沢 繁

百千鳥築器おほかたがらんたう

福津市 瀧 あき子

△評▽例えはギター。がらんどうだからこそ音が豊かに響く。鳥たちのさえずる春の空間も大きな楽器だと思えてきた。

鱈酒に店の親父も加わりぬ

川崎市 久保田秀司

△評▽常連客でにぎわう店なのだ。料理を大方出し終えると店主もひれ酒の輪に加わった。

陰翳は女体の如し雪景色

青森市 小山内豊彦

湯豆腐や雨もまたよし法善寺

東京 岩崎 美範

冬深し貌突き出して吠ゆる犬

津市 渡邊 健治

日曜の朝の珈琲シクラメン

奈良市 大塚 裕子

カップ麺吸る警官愚白し

越谷市 小田 穂藻

寒の入安全靴の底厚し

東京 福島 隆史

新調の鞆に句帳春隣

可児市 鷲津 誠次

冬雀病院はもう起きてをり

大野城市 野分 のわ

蓬もち草書の轍ひるがへる

久喜市 利根川輝紀

△評▽よもぎ餅と草書は縁語と言えるかもしれない。たしかに楷書で書かれたものより、格式ばってなくてうまさうで心ひかれる。

寒晴や東京タワーに脚四本

横浜市 相沢恵美子

△評▽東京タワーの脚の存在感、直下に仰ぐと強烈だ。青空へ視線がせり上がってゆく。

弓返しの音の清しき始

香芝市 河野 嘉雄

日向ぼこ思ひ出ひとつつ温め

加古川市 中村 立身

連峰は霞み盆地に大鳥居

枚方市 門川 清秀

大鷲の舞ふや伊吹に日矢の差し

上尾市 山口 流離

寒夜覚め柱の軋む音怖し

西宮市 上田 佳子

虎落笛母の強氣を引き継げず

秦野市 林 ち島

教会の椅子に手袋残されて

館林市 坂口いちお

なまはげの新人声を張り上げし

横手市 笹山 梅子

うたは奏でる

セーターの時間

染野太朗

この欄でどんな歌を取り上げようかと歌集や短歌雑誌をめくるときは、締め切りに追われて苦しいときもあるが、それでもなかなか楽しい。テーマを探りながら、あるいは異なる歌人の歌を比べながら読むとき、以前は見逃していた一首に立ち止まることがある。

ひと冬をひと冬なりに伸びておりはまなす色のセーターの襟 北山あさひ

セーターの襟がその冬の着始めの頃よりもすこしだけ伸びている。そのわずかな変化に時間の経過を感じている。襟をじっと見つめているような雰囲気もある。はまなす色とは赤紫色を指すはずだが、このように表現されるとやはりその花自体が思われる。はまなすは夏の花。

セーターに感じるひと冬の時間のその奥に、夏にまつわる何らかの思い出の存在を想像してもよいのかも知れない。

またしてもわが顔が出るよく伸びるセーターの首ぐれぐれぐれと

北山の歌と対比すると、よりおもしろく読めるように思う。同じくセーターの襟の歌だが、時間の経過のなかで、この歌はむしろ変化しないものを詠んでいる。しかもそれは自分の顔。喚起される映像は、リビートされるショート動画のようユーモアもあるが、一方で、人間の顔というものがどこか気味悪くも思えてくる。さらに「私とは何か」というすこし大仰な問いも思い浮かべてしまうのだが、それは読みすぎだろうか。

・アランセーターひかり細かに編み込まれ君に真白き歳月しずむ 服部真里子

(そのの・たろう) 歌人

小島ゆかり